

大きな竜を小物に

フラッグ作り替え さいたま

話題
スポーツ

さいたま市誕生20周年を記念して昨年、大宮駅に掲げられた大型フラッグがアップサイクルにより、ポシエツトやペンケースの商品に生まれ変わった。市内の障害者施設が製作を担当。障害者施設の商品を販売するオンラインストア「サデコMONOがたり」で販売している。(杉野孝)

障害者施設が製作



大宮駅構内の東西連絡通路に登場した大型フラッグ
2021年10月21日

市のPRキャラクター「つなが竜ヌゥ」の表情がデザインされた大型フラッグは昨年10月、2週間にわたり大宮駅構内に登場した。市の担当者は「廃棄するのはもったいない」として、新たな付加価値を持たせた製品に生まれ変わらせるアップサイクルを検討。市誕生20周年から

未来のさいたま市につなげながら、障害者施設の仕事、環境への配慮にもつなげたいと企画した。

縦5尺、横6尺の大型フラッグの素材を生かして、「ヌゥのうろこポシエツト」(税込み4800円)、「ヌゥのペンケース」(同1500円)が開発された。トートバッグや反射材キーホルダーなどの商品、大きな目の部分の生かし方も検討されている。



「ヌゥのうろこポシエツト」(さいたま市提供)

2014年からアップサイクルを推進してきた公益社団法人「埼玉デザイン協議会」(SA)を明記し、Facebookグループを開設し、T:048-829-1034へ。

ポシエツト プレゼント

市は今回の企画を記念して、ポシエツトを10人にプレゼントする。はがき(1人1通)で郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記し、T:048-829-1034へ。

障害者施設の「やどかりの里すてあーず」(見沼区南中野)と「埼玉聴覚障害者福祉会 春里どんぐりの家」(見沼区小深作)が、アップサイクル商品を製作している。すてあーずがポシエツトを縫製し、どんぐりの家がヌゥのうろこ35枚の張り付けを担当。縫製を得意とする女性(64)は「特殊な素材なので難しく、緊張する。作ることが好きなので、きれいに出来上がったときは感激した」と話し

「知ってもらおう 良い機会に」

た。すてあーず代表の宗野文さん(46)は「市の作ったものを、私たちの手で新しいものに作り変え、多くの人に使っていたら、障害のある人の仕事や施設の存在に触れて、知ってもらえる良い機会になる」と歓迎していた。

宗野さんは「コロナ禍だからこそ、行政や市民とのつながりを大切にしたい」という。どんぐりの家との協働作業の機会を得たことから、「コロナが収束したら、いづつか事業所のメンバー同士の交流も実現させたい」と話していた。



ポシエツトとペンケースの縫製作業や大型フラッグの裁断作業の様子。3月30日、さいたま市見沼区南中野のすてあーず